



【とちない かつのり さん】 千歳科学技術大学  
●写真部の部長を務め、協働事業『広報ちとせ』表紙写真撮影事業の中心として活躍。1年生の夏に購入した一眼レフカメラを手に、季節感のある風景や行事などを撮影。「撮影はとにかく楽しかった。続いたのは仲間の支え合いがあったおかげ」と振り返る。※これまでの広報ちとせの表紙は市ホームページなどでご覧になれます(平成23年度の表紙は今月の表紙でも紹介しています)。

撮影をとおして残した  
たくさんの写真と思い出

## 広

報紙の「顔」でもある表紙の写真撮影を、平成22年4月から担当してきた、千歳科学技術大学写真部の皆さん。部長としてこの活動を引っ張ってきた栃内さんは「2年間でたくさんのお思い出ができました」と振り返ります。

2年前の春に入学した栃内さんがはじめて撮影を担当したのは、その年の7月号。当時はカメラの使い方にもよく慣れはじめたころで、とにかく夢中で撮影したと言います。

広報紙は毎月10日の発行に向けて前月中に編集を進めます。例えば、1月号の表紙写真は12月中旬に部員が集まってテーマを考え、撮影します。テーマを「初詣をする子ども」とした平成23

年1月号では、学生寮の寮母さんの子どもにお願いし、撮影のため、12月にお参りをしてもらいました。

「毎月、ひと月先の季節や行事を考えて撮影をするので、頭を使います。顧問の先生と話すのは、授業のことでなく、写真のことばかりでした」と笑います。

「撮影した写真の中で、特に印象に残っているのは、平成23年2月号と8月号です」と栃内さん。

小学生のスキー体験のようすを撮影した2月号は、自らもスキーをしながら丸一日かけての密着取材。「小学生に話しかけながら撮影することで自然と心がうち解け、生き生きとした表情を撮ることができました」と語ります。

8月号では夏らしい元気の良さや清涼感を伝えようと千歳川の川下りを撮影。「当日はもうひとりの部員と2人で、ズボン脱いで川に入って撮影しました。間近で見る川の水は想像以上に透き通っていて、その神秘的な姿は忘れることができません」と栃内さん。

夏とはいえ冷たい水、流れのある川の中でカメラを落とさないよう必死にシャッターを切り、納得のいく一枚を残すことができました。

「2年間の活動で、趣味の写真撮影では得ることのない、地域のひととのふれあい、新しい風景との出会いなど、たくさんの発見がありました。この経験は、きつと将来の自分に役立つはず」と力強く語ってくれました。

人のいる風景

SCENERY OF PEOPLE



栃内

KATSUNORI  
TOCHINAI

克典

さん